



競輪補助事業完了のお知らせ

この度、公益財団法人 J K A 様から 2024 年度福祉車両・就労支援車両の整備 補助事業の交付を受けて、下記の事業を完了いたしました。

本事業の実施により、福祉車両（スロープ式）を導入したことで、送迎効率の向上、職員の負担軽減、利用者満足度の向上を実現しました。

ここに事業完了のご報告を申し上げますと共に、公益財団法人 J K A 様をはじめ、ご協力を賜りました関係者の皆様に謹んで感謝の意を表します。

記

事業名	2024 年度 福祉車両・就労支援車両の整備 補助事業
事業の内容	スロープ付福祉車両を整備（デイサービス送迎業務用）
購入車両	トヨタ ノア ウェルキャブ
事業費総額	3,344,470 円
補助金額	2,100,000 円
実施場所	東京都足立区西新井本町 4 丁目 13-16
完了年月日	2025 年 1 月 16 日



社会福祉法人友興会
理事長 正能 達也

Thank You

競輪とオートレースの補助事業 による車両導入のご報告

福祉車両購入のご報告と感謝のご挨拶

公益財団法人 JKA 様の 2024 年度補助事業により補助金を頂き、友興の園に新しい車両を導入いたしました。車両はトヨタ ノアのウェルキャブです。

この車両の導入により、送迎可能な人数や範囲が広がることでより多くのご利用者様を受け入れることできる、お花見などの外出など日中活動がしやすくなる等、友興の園のご利用を希望される地域の皆様のニーズにお応えすることできるものと考えております。

ここに本事業が無事に完了いたしましたことをご報告申し上げるとともに、公益財団法人 JKA 様より賜りましたご支援に対し、心より深く感謝申し上げます。



福祉車両（トヨタ ノア ウェルキャブ）の特徴

- 余裕のヘッドクリアランスで乗車中もゆったり
- バックドアを開けると自動的に車高降下
- エアサスペンションによる、ゆるやかな車高降下となだらかなスロープ角度
- ワイドな開口部で乗降がスムーズ
- スロープ前倒れ機能も装備 等

今後の活動について

新しい福祉車両を活用し、より多くのご利用者様に安心して快適な移動サービスを提供してまいります。これからも地域社会に貢献し、皆様のお役に立てるよう努力してまいりますので、引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

お問い合わせ

社会福祉法人友興会 高齢者在宅サービスセンター西新井本町 友興の園
〒123-0845 東京都足立区西新井本町 4-13-16
施設長 三ツ井裕俊
電話番号：03-3890-0714

<自己評価1回目>

※黄色のセルをすべて記入してください。

整理番号

2024P-

288

補助事業者名

社会福祉法人友興会

別紙4 JKA補助事業 2024年度 事前計画/自己評価書(4/5)

5. 補助事業の自己評価

作成日

2025

年

7

月

25

日

作成者

三ツ井 裕俊

(a) 個別項目評価

●個別の評価項目について、事前計画/自己評価書(3/5①②) 4. 事前計画 に対する達成状況等を把握し、分析・評価してください。

(1) 受益者 (ニーズ)	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点	
(2) 事業内容	移送者2「スロープ式」(燃料車) メーカー名:トヨタ・車名:ノア・排気量:2,000cc・用途:デイサービス送迎業務				
事業の新規性または継続の必要性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点	
事業の発展性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点	
実施計画・体制	実施体制として、責任者:施設長、申請業務担当:施設長・事務員、広報担当:相談員・事務員と実施計画を提出していましたが、申請業務を担当していた事務員が2024年10月末で退職し、後任の事務員不在のまま、(前任の)施設長が単独でJKA補助事業申請業務等を担っていましたが、(前任の)施設長も4月初旬で退職し、2025年4月に他事業所より人事異動で着任した(現)施設長にJKA補助事業の完了報告書の提出が未完了であること、JKA担当者へ連絡先、JKA関連資料及びデータの引継ぎがないこと等により、対応が遅れてしまいました。			1	
(3) 達成目標	事業の実施結果	[達成値] 2025年1月16日納品	[達成状況] 100%	[具体的内容] 福祉車両の新車納入にあたっては、自動車メーカーから半導体不足、部材高騰より、納期遅延や部品供給の影響により、希望車種の確保が困難な状況が続いておりましたが、目標値として設定した2025年3月を待たずに予定より早い時期(2025年1月)にトヨタ ノア(福祉車両仕様)を納入・導入することができました。	4
	事業の成果・波及	[達成値] 送迎対応人数の増加	[達成状況] 100%	[具体的内容] 福祉車両(トヨタ ノア)を新たに導入したことにより、2025年1月後半から従前よりも送迎対応力が大幅に向上いたしました。 変更前(キューブ使用時):一度の送迎対応可能人数3名(運転員1人で対応していた為、乗降の介助時間も長め) 変更後(ノア導入後):一度の送迎対応可能人数が6名に増加し、運行便数の効率化が可能になりました。また添乗職員1名同乗する事により、職員の負担軽減および利用者満足度の向上にも寄与しています。	4
(4) 情報発信	事業の実施結果	[達成値] 関係者への周知、施設内掲示板への掲示、ホームページへの掲載	[達成状況] 100%	[具体的内容] 福祉車両の納品・検収が終了してから事業実施結果の周知が遅くなりましたが、施設内にある掲示板に公益財団法人JKAの補助事業により福祉車両が導入できたことがわかる広報物を掲示しています。また、ホームページ内お知らせ欄にも掲載を行っております。	3
	競輪・オートレース補助金による事業であること	[達成値] 関係者への周知、施設内掲示板への掲示、ホームページへの掲載(トップページ及びお知らせ欄)	[達成状況] 100%	[具体的内容] 当会では、公益財団法人JKAの補助事業による福祉車両導入の実績を広く周知し、事業の透明性と社会的信頼性の向上を図ることを目的として、ホームページ上にJKAのバナーを2024年から掲示しております。当該バナーには公益財団法人JKAの公式サイトへのリンクを設定しており、来訪者が補助事業の内容や取り組みを容易に確認できるように配慮しております。この取り組みにより、補助事業への理解促進・地域住民および関係者への情報提供といった効果が期待されており、今後も積極的な情報発信に努めてまいります。	4
(5) 自己評価の体制	退職等により当初計画していたメンバーとは違うメンバーに変わったが、事前計画/自己評価に沿った評価の話し合いを行う事ができた。			3	

(b) 総合評価

総合評価点

3

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。

(1) 事前計画(2/5)記載の「補助事業の直接的な目的」を踏まえた、事業全体についての意見・所感	①業務負担の軽減と効率化 ノア導入により、一度に対応可能な送迎人数が増加し、運行便数の見直しが可能になりました。また、広い車内スペースにより、乗降介助の作業時間を大幅に短縮できました。職員からは「移乗がしやすくなった」「安全性が高まった」との声が多く、業務ストレスの緩和にも寄与しています。 ②運営コストおよび環境負荷の低減 エンジントラブルやリフトの不具合等移送に伴う不安が解消され、長期的にも修繕費・整備費の抑制が期待されます。また、燃費向上と排出ガスの抑制により、環境負荷の軽減につながります。 今後も本車両を活用し、送迎業務の効率化とサービス品質の向上を図ってまいります。
(2) 優れている点・課題、改善すべき点	ノアの導入は、送迎業務のみならず、職員の働きやすさにも貢献しています。増便や利用者増加に伴い、送迎ルートの再編成・最適化が課題となりました。利用者の居住地や通所時間帯を加味した、柔軟な運行計画を日々考えるようにしています。また、今後も、運用体制・研修制度の整備を進めることで、さらなるサービスの質向上を目指していきたいと考えています。
(3) その他、アピールしたい点、是非知ってもらいたい点	車体に掲示されたJKAステッカーにより地域住民からの認知度が向上しました。ホームページへの導入報告やバナー掲載により、事業の透明性と社会的信頼性を強化することができました。

【福祉車両・就労支援車両】

別紙 JKA補助事業 2024年度 事前計画/自己評価書(5/5)

(c) 事業の促進・阻害要因の自己分析

- 事業の目標達成を促進した、あるいは阻害した要因について、「要因分類」(1)~(15)の「促進」または「阻害」欄に「*」を記し、要因の内容を a 欄に、阻害要因への対応あるいは今後この分析結果をどう活かすかを b 欄に、それぞれの要因分類の番号(1)~(15)を付して、具体的にご記入ください。
- 促進または阻害要因が無い場合には、(16) の欄に「*」を記してください。

事業の促進・阻害要因の自己分析					
	促進	阻害	要因分類	a. 促進または阻害要因の具体的な内容	b. 対応、今後この分析結果をどう活かすか。
内部要因			(1) 経費	実施体制として、責任者:施設長、申請業務担当:施設長・事務員、広報担当:相談員・事務員と実施計画を提出していましたが、申請業務を担当していた事務員が2024年10月末で退職し、後任の事務員不在のまま、(前任の)施設長が単独でJKA補助事業申請業務等を担っておりましたが、(前任の)施設長も4月初旬で退職し、2025年4月に他事業所より人事異動で着任した(現)施設長にJKA補助事業の完了報告書の提出が未完了であること、JKA担当者の連絡先が共有されていないこと、JKA関連資料及びデータの引継ぎが十分に行えていないこと等により、事業完了報告書の提出が遅れてしまった。	実施体制として記載された職員のうち、現在在籍している職員に進捗状況を共有し、複数人で進捗が確認できる状態を作りたいと考えております。また、事業所の代表メールアドレスを作成し、申請関係のメールの送受信は個人のメールアドレスで行わないなど対応を取っていきたくと考えております。
		*	(2) 実施体制 (人員、関係機関の協力等の確保)		
			(3) 資材調達 (事業実施に必要な物資等の確保)		
		*	(4) 実施期間 (事業終了までに要する期間)		
			(5) 事業運営のノウハウ (進捗管理、資金管理等)		
			(6) 設計仕様の変更 (主に建築)		
			(7) その他		
外部要因			(8) 受益者の規模・ニーズ		
			(9) 実施体制以外の団体等の協力・支援		
			(10) 関連法制度の変更		
			(11) 利害関係者(受益者以外)の要望への対応		
			(12) 災害の発生(地震、洪水等)		
			(13) 同様の技術開発		
			(14) 競合するサービス・事業の出現		
			(15) その他		
		(16) 特になし			